

行動科学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
行動科学概論	ミクロ-マクロ問題入門	2	佐藤 嘉倫	3	月	4	1
行動科学概論	ゲーム理論入門	2	佐藤 嘉倫	4	月	4	2
行動科学概論	社会調査の基礎	2	木村 邦博	3	火	5	3
行動科学概論	社会調査の実際	2	木村 邦博	4	火	5	4
行動科学基礎演習	行動科学の基礎	2	浜田 宏	3	金	4	5
行動科学基礎演習	行動科学のための因果 推論入門	2	神林 博史	4	火	3	6
行動科学基礎実習	多変量解析	2	永吉 希久子	4	水	4、5	7
行動科学基礎実習	行動科学基礎実習	2	永吉 希久子	5	水	4、5	8
行動科学各論	リスクと防災の社会学	2	佐藤 嘉倫	5	月	5	9
行動科学各論	格差・不平等・リスクの 社会学	2	佐藤 嘉倫	6	月	5	10
行動科学各論	差別の社会学	2	永吉 希久子	6	木	2	11
行動科学各論	数理社会学	2	武藤 正義	集中(5)			12
行動科学演習	質問の科学	2	木村 邦博	5	月	4	13
行動科学演習	「質問の科学」実験実 習	2	木村 邦博	6	月	4	14
行動科学演習	ベイズアプローチによる 社会学の理論と実証	2	浜田 宏	5	水	2	15
行動科学演習	社会秩序の自己組織 化とエージェント・ベ ースト・モデル	2	佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴	5	水	3	16
行動科学演習	エージェント・ベースト・ モデルによる自己組織 性の解明	2	佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴	6	水	3	17
行動科学演習	社会的排除	2	永吉 希久子	5	金	2	18
行動科学演習	実践計量社会学	2	永吉 希久子	6	金	2	19

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB31402, **科目ナンバリング：**LHM-OS0201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ミクロ-マクロ問題入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Micro-macro Problems

3. 授業の目的と概要：

次に上げるモデルを用いて、個人の行動から社会的結果が生じる過程の分析を進める。

- (1) 個人的意思決定モデル
- (2) 交換モデル
- (3) 拡散モデル
- (4) 学習モデル

4. 学習の到達目標：

個人と社会の相互連関について理解を深め、社会現象を分析する方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. イントロダクション (1) (教科書第 1 章、第 2 章)
- 2. イントロダクション (2) (教科書第 1 章、第 2 章)
- 3. 推論の評価 (1) (教科書第 3 章)
- 4. 推論の評価 (2) (教科書第 3 章)
- 5. 選択モデル (1) (教科書第 4 章)
- 6. 選択モデル (2) (教科書第 4 章)
- 7. 選択モデル (3) (教科書第 4 章)
- 8. 交換モデル (1) (教科書第 5 章)
- 9. 交換モデル (2) (教科書第 5 章)
- 10. 交換モデル (3) (教科書第 5 章)
- 11. 適応モデル (1) (教科書第 6 章)
- 12. 適応モデル (2) (教科書第 6 章)
- 13. 拡散モデル (1) (教科書第 7 章)
- 14. 拡散モデル (2) (教科書第 7 章)
- 15. ここまで講義で取り上げたモデルを再検討し、モデル構築の方法論を考察する。

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [60%]・() リポート [%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

レイブ・マーチ『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜第 5 講時 (事前予約をすること)

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB41402, **科目ナンバリング：**LHM-OS0201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ゲーム理論入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Game Theory

3. 授業の目的と概要：

ゲーム理論の基礎的な論理を理解することをめざす。

講義でカバーする内容は次のようなものである。

- ・ゲーム理論による説明形式
- ・戦略型ゲームとナッシュ均衡
- ・展開型ゲームと部分ゲーム完全ナッシュ均衡
- ・繰り返しゲームとフォーク定理
- ・不完備情報ゲームと完全ベイジアン均衡
- ・進化ゲーム理論

4. 学習の到達目標：

- (1) ゲーム理論の基本的論理を理解できるようになる。
- (2) ゲーム理論を用いた学術論文の内容を理解できるようになる。
- (3) 自分で簡単なゲーム理論的モデルを構築できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1) (教科書 1, 2, 3)
2. イントロダクション (2) (教科書 1, 2, 3)
3. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (1) (教科書 4, 5, 6)
4. 離散型戦略・連続型戦略・囚人のジレンマ (2) (教科書 4, 5, 6)
5. 展開形ゲーム (教科書 9, 10, 11)
6. 展開形ゲームの応用 (教科書 12, 13)
7. 繰り返しゲーム (1) (教科書 14, 15)
8. 繰り返しゲーム (2) (教科書 14, 15)
9. 不完備情報ゲーム (教科書 16, 17)
10. 不完備情報ゲームの応用 (1) (教科書 20)
11. 不完備情報ゲームの応用 (2) (教科書 20)
12. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプレクター・ダイナミクス (1) (教科書 22, 23, 24)
13. 進化ゲーム理論—進化的安定戦略とリプレクター・ダイナミクス (2) (教科書 22, 23, 24)
14. 確率進化ゲーム理論 (教科書 25)
15. ここまで講義で取り上げたトピックを再検討し、モデルを構築する方法論を考察する。

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [60%]・() リポート [%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論—人間と社会の複雑な関係を解く』新曜社、2008 年

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜第 5 講時 (事前に予約すること)

グローバル安全学トップリーダー育成プログラムの基幹科目「リスクと社会」を兼ねる。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB32501, **科目ナンバリング：**LHM-OS0201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会調査の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Social Surveys

3. 授業の目的と概要：

現代社会を特徴づける人間活動の 1 つである社会調査について、その目的と進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りから様々な情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

4. 学習の到達目標：

社会調査に関する基本的な知識を修得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義
2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史
3. 調査内容の決定(1)
4. 調査内容の決定(2)
5. 調査対象の決定(1)
6. 調査対象の決定(2)
7. 調査の実施と処理(1)
8. 調査の実施と処理(2)
9. 結果の集計と分析(1)
10. 結果の集計と分析(2)
11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例(1)
12. 調査報告をまとめる
13. さまざまな社会調査(1)：社会調査の実例(2)
14. さまざまな社会調査(2)：社会調査の実例(3)
15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理

6. 成績評価方法：

筆記試験による。

7. 教科書および参考書：

教科書：原純輔・浅川達人 『社会調査』（改訂版）放送大学教育振興会、2009.

8. 授業時間外学習：

教科書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

9. その他：なし

- (1) 行動科学概論（社会調査の実際）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 A に対応。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB42501, **科目ナンバリング：**LHM-OS0201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会調査の実際

2. Course Title (授業題目)：

Social Survey Methodology

3. 授業の目的と概要：

社会調査を遂行しておく上で理解しておくべき、調査目的に合った調査企画・設計の方法と、データ蒐集やデータ分析の主要な技法について理解する。基本的な考え方と同時に、現実遭遇する具体的な問題にどう実際的に対処していくかについても把握する。

4. 学習の到達目標：

社会調査を遂行するために基本的な技法に関する知識を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 調査票の設計とワーディング 1（説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法）
2. 調査票の設計とワーディング 2（調査票の構成、ワーディングと回答の歪み）
3. 標本抽出と統計的推測 1（標本抽出法）
4. 標本抽出と統計的推測 2（統計的推測）
5. 標本抽出と統計的推測 3（統計的検定）
6. 因果推論の方法 1（因果関係と相関関係）
7. 因果推論の方法 2（因果的規定力の推定）
8. 測定と尺度構成 1（測定と尺度構成の考え方）
9. 測定と尺度構成 2（多次元尺度の考え方）
10. 測定と尺度構成 3（社会的地位の測定法）
11. 多変量解析の基礎 1（重回帰分析の考え方）
12. 多変量解析の基礎 2（質的変数と重回帰分析）
13. 多変量解析の基礎 3（パス解析と因子分析）
14. データの整理と作成 1（調査票の配布・回収からエディティング、コウディング、データ入力とクリーニングまで）
15. データの整理と作成 2（非定形データの処理・分析法）

6. 成績評価方法：

筆記試験による。

7. 教科書および参考書：

参考書：原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第2版]』 東京大学出版会、2004

8. 授業時間外学習：

参考書と補足資料（ISTU で配付）で予習・復習をする。

9. その他：なし

- (1) 行動科学概論（社会調査の基礎）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 B に対応。

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：浜田 宏（教授）

講義コード：LB35403, **科目ナンバリング：**LHM-OS0202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

行動科学の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：

行動科学の基本的な考え方を修得するために、経済学・心理学・社会学の代表的理論を紹介する。

4. 学習の到達目標：

1. 行動経済学の代表的理論を理解する。
2. 人間の認知バイアスを理解する。
3. 人間行動の基本的な数学モデルを理解する
4. 統計分析の基礎を理解する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 二つのシステム：システム1（速い思考）とシステム2（遅い思考）
3. 注意と努力—衝動的で直感的なシステム1
4. 怠け者のコントローラー—論理思考能力を備えたシステム2
5. ヒューリスティクスとバイアス（少数の法則—統計に関する直感を疑え）
6. アンカー—数字による暗示
7. 利用可能性ヒューリスティック
8. 自信過剰（わかったつもり）
9. 後知恵とハロー効果
10. 妥当性の錯覚—自信は当てにならない
11. 直感対アルゴリズム—専門家の判断は統計より劣る（ほか）
- 12—14. プロスペクト理論とその発展的問題
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 [30%]
授業時間内での報告 [30%]
コメントペーパー [30%]
期末課題 [10%]

7. 教科書および参考書：

教科書：ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー』早川書房

8. 授業時間外学習：

輪読回では授業で扱うテキストの範囲を事前により、コメントペーパーを準備する。コメントはISTUをつかって授業前に提出すること。

9. その他：なし

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：神林 博史（非常勤講師）

講義コード：LB45404, **科目ナンバリング：**LHM-OS0202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

行動科学のための因果推論入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Causal Inference for Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：

行動科学において非常に重要な課題である因果推論（原因と結果の判断）について、その基本的な考え方と代表的な分析方法を紹介する。

4. 学習の到達目標：

到達目標

- (1) 因果推論とは何かを正しく理解できる。
- (2) 因果推論を行うための統計的方法を理解できる。
- (3) 具体的な社会現象について、自分で因果推論を行う能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

伊藤（2017）をテキストとして、因果推論の考え方と代表的な方法を解説する。授業は、一週目にテキストを講読し、二週目にテキストの内容に関連した課題を参加者が報告するという二週一セットの形で進める。

1. イントロダクション：因果推論とは何か
2. なぜデータから因果関係を導くのは難しいのか（第1章の講読）
3. 因果関係の判断が難しい事例を探してみよう（第1章の課題報告）
4. 現実の世界で「実際に実験をしてしまう」（第2章の講読）
5. 自分でRCTをデザインしてみよう（第2章の課題報告）
6. 「境界線」を賢く使うRDデザイン（第3章の講読）
7. 自然実験を用いた研究を探してみよう（第3章の課題報告）
8. 「階段状の変化」を賢く使う集積分析（第4章の講読）
9. 集積分析ができそうな社会現象を探してみよう（第4章の課題報告）
10. 「複数期間のデータ」を生かすパネル・データ分析（第5章の講読）
11. パネル・データ分析の実例を探してみよう（第5章の課題報告）
12. 実践編：データ分析をビジネスや政策形成に生かすためには？（第6章の講読）
13. データ分析で成功した事例・失敗した事例を探してみよう（第6章の課題報告）
14. 上級編：データ分析の不完全性や限界を知る（第7章の講読）
15. 因果推論をさらに深く学ぶために（まとめと今後の学習の指針）

6. 成績評価方法：

授業内での課題報告（40%）、授業内での質問やコメント（30%）、期末課題（30%）

7. 教科書および参考書：

伊藤公一郎. 2017. 『データ分析の力：因果関係に迫る思考法』 光文社新書

その他の文献は授業時に指示する

8. 授業時間外学習：

テキストを事前によく読み、疑問点を調べておくこと。課題をきちんと行うこと。

9. その他：なし

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時. 後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LB43408, 科目ナンバリング：LHM-OS0203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

多変量解析

2. Course Title (授業題目)：

Quantitative Research Methods

3. 授業の目的と概要：

統計ソフトウェア R を用いた演習を通じて、多変量解析の諸技法の理論とデータの分析の実際についての理解を深める。

4. 学習の到達目標：

- 1) 記述統計量から多変量解析までの統計分析についての知識を身に付け、適切に使用できるようになる。
- 2) 統計ソフトウェア R を用いて、多変量解析を行うことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

各回の内容は以下の通り。

- 1 社会調査と分析の流れ
- 2 R の基礎と記述統計(1)：度数分布表
- 3 R の基礎と記述統計(2)：平均、分散、グラフの利用
- 4 推測統計(1)：平均の差の検定、分散分析
- 5 推測統計(2)：相関と偏相関
- 6 推測統計(3)：クロス集計表とエラボレーション
- 7 多変量解析(1)：回帰分析
- 8 多変量解析(2)：ダミー変数の利用と交互作用効果
- 9 多変量解析(3)：二項ロジスティック回帰
- 10 多変量解析(4)：多項ロジスティック回帰・順序ロジスティック回帰
- 11 多変量解析(5)：主成分分析と因子分析
- 12 多変量解析(6)：媒介効果の分析
- 13 多変量解析(7)：マルチレベル分析
- 14 多変量解析(8)：分析モデルの構築と手法の選定
- 15 多変量解析(9)：総合演習

6. 成績評価方法：

毎回の課題（40%）、最終レポート（60%）

7. 教科書および参考書：

永吉希久子. 2016. 『行動科学の統計学』共立出版.

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎回課題を出すので、翌週までに課題を準備しておくことが求められる。

9. その他：なし

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時. 前期 水曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：永吉 希久子（准教授）

講義コード：LB53401, 科目ナンバリング：LHM-OS0203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

行動科学基礎実習

2. Course Title (授業題目)：

社会調査演習

3. 授業の目的と概要：

社会調査を行う上で必要となるさまざまな技法を習得することを目的とし、授業を通して社会調査の企画から実査、分析、報告書の作成までの一連の過程を経験する。この授業では特に量的調査を中心に扱う。

具体的には、東北大学文学部生とその友人を対象にした質問紙調査を行う。調査のテーマ設定、調査票の作成や調査の実施、データの入力、分析、報告を行う。「東北大学生のネットワークと意識」を共通のテーマとして設けたうえで、受講生の関心に応じてグループに分け、質問項目を考えてもらう予定である。

4. 学習の到達目標：

- ① 社会調査を行うための技法を身につけ、実際の調査を適切な方法で実施できるようになる。
- ② 仮説の設定およびその検証方法を理解し、分析結果を仮説と関連させながら適切に表現できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

具体的なスケジュールは以下のとおりである。第1回から第5回の授業では、関心の近い受講者が集まってグループに分かれてもらい、仮説や質問項目の検討を行ってもらう。ただし、最終的には各グループの質問項目を1つの調査票にまとめ、実査やデータの入力作業は全受講者で行う。

1. 社会調査とは・社会調査の進め方
2. 社会調査のデザイン・調査テーマの設定
3. 先行研究、既存調査の整理
4. 仮説の設定、実査方法・調査対象者の検討
5. 質問項目の検討
6. 調査票の作成
7. 実査
8. エディティング・コーディング
9. 調査結果の入力
10. データのクリーニング
11. データ分析による仮説の検証 (1)
12. データ分析による仮説の検証 (2)
13. 結果の報告・報告書原稿の執筆
14. 報告書原稿の輪読・修正
15. 報告書の作成

6. 成績評価方法：

授業への積極的な参加 (60%)、最終報告書 (40%)

7. 教科書および参考書：

轟亮・杉野勇『入門・社会調査法』法律文化社, 2010.

8. 授業時間外学習：

調査票作成段階：関連する先行研究を読み、仮説を検討する。

実査段階：対象者へのアポイントや実査への参加。

分析段階：報告書原稿の作成。

9. その他：なし

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB51502, **科目ナンバリング：**LHM-OS0301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

リスクと防災の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Risk and Disaster Prevention

3. 授業の目的と概要：

教科書に収められている論文や関連論文を踏まえて次のようなテーマなどを扱う予定である。

- ・ 社会関係資本と防災
- ・ 消防団のあり方
- ・ 防災とコミュニティ
- ・ 災害ボランティア

4. 学習の到達目標：

自然災害のリスクを低減するためには、自然科学や工学だけでなく人間社会を対象とした社会科学の視点も必要となる。本講義では、社会科学とりわけ社会学の理論や方法論を用いて自然災害のリスクを低減し防災を実現する方策を検討する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 本講義の概略を解説する。
2. 教科書 (1) 第 2 章を題材に防災をめぐるローカル・ノレッジのあり方を検討する。
3. 教科書 (1) 第 3 章を題材に防災コミュニティと町内会の検討をする。
4. 教科書 (1) 第 4 章を題材に都市部町内会における東日本大震災への対応に対する理解を深める。
5. 教科書 (1) 第 5 章を題材に災害ボランティアと支えあいのしくみづくりを分析する。
6. 教科書 (1) 第 6 章を題材に被災者の生活再建の社会過程に関する理解を深める。
7. 教科書 (1) 第 7 章を題材に災害弱者の支援と自立の問題を検討する。
8. 教科書 (1) 第 9 章を題材に防災ガバナンスの可能性と課題を議論する。
9. ここまで講義で取り上げてきたテーマを全体的に考察し、防災のための地域社会づくりについて議論する。
10. 教科書 (2) 第 1 章を題材に社会関係資本概念の初歩的な理解をする。
11. 教科書 (2) 第 2 章を題材に社会科学における社会関係資本概念の検討をする。
12. 前回に続いて、教科書 (2) 第 2 章を題材に社会科学における社会関係資本概念をさらに深く検討する。
13. 教科書 (2) 第 3 章を題材に関東大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。
14. 教科書 (2) 第 4 章を題材に阪神淡路大震災における社会関係資本と復興との関係を検討する。
15. 今まで講義で取り上げてきたテーマを振り返って、防災のための社会関係資本構築に向けた方策を検討する。

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [60%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

- (1) 吉原直樹 (編), 2012, 『防災の社会学ー防災コミュニティの社会設計に向けて』(第 2 版), 東信堂.
- (2) ダニエル・アルドリッチ, 2015, 『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割とは何か：地域再建とレジリエンスの構築』, ミネルヴァ書房.

その他の関連論文については適宜講義中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所や関連文献を授業前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第 5 講時 (事前に予約すること)

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：佐藤 嘉倫 (教授)

講義コード：LB61502, **科目ナンバリング：**LHM-OS0301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

格差・不平等・リスクの社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Disparity, Inequality, and Risk

3. 授業の目的と概要：

教科書に収録されている論文の中から講義テーマに合うものを取り上げて、参加者同士の議論によって理解を深めていく。

4. 学習の到達目標：

現代社会の格差と不平等の問題を社会階層論の視点から理解することを目指す。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. ひとり親家庭と教育達成 (教科書 16 章)
3. 教育達成過程の階層差 (教科書 17 章)
4. 学校から職業への移行 (1) (教科書 5 章)
5. 学校から職業への移行 (2) (教科書 5 章)
6. 若年労働市場 (1) (教科書 4 章、6 章)
7. 若年労働市場 (2) (教科書 4 章、6 章)
8. 転職 (1) (教科書 1 章、2 章、3 章)
9. 転職 (2) (教科書 1 章、2 章、3 章)
10. 女性の就労 (1) (教科書 8 章、11 章)
11. 女性の就労 (2) (教科書 8 章、11 章)
12. ライフイベント (教科書 9 章、10 章)
13. 高齢者の格差 (教科書 13 章)
14. ライフスタイル (教科書 14 章、15 章)
15. 今までの講義で取り上げたテーマを振り返り、現代日本における格差、不平等、リスクの問題を総合的に検討する。

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [60%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：佐藤嘉倫・尾嶋史章 (編)『格差と多様性』(現代の階層社会 第 1 巻)、東京大学出版会。

参考書：石田浩・近藤博之・中尾啓子 (編)『趨勢と比較』(現代の階層社会 第 2 巻)、東京大学出版会。

斎藤友里子・三隅一人 (編)『流動化の中の社会意識』(現代の階層社会 第 3 巻)、東京大学出版会。

8. 授業時間外学習：

教科書の該当箇所を講義の前に読んでおくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第 5 講時 (事前に予約すること)

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：永吉 希久子 (准教授)

講義コード：LB64202, **科目ナンバリング：**LHM-OS0301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

差別の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociological Theory of Discrimination

3. 授業の目的と概要：

今日の日本においては、ヘイトスピーチ規制のための法律の制定が検討されるなど、差別問題が重要な社会問題となっている。私たちの多くは、差別が間違っただけという規範を共有している。にもかかわらず、その根絶は容易ではない。この授業では、心理学や社会学などにおける差別研究の知見を紹介しつつ、差別はなぜ生じ、なぜなくなるのかを考える。

4. 学習の到達目標：

- 1) 現代社会で生じている差別のさまざまな形態について説明できるようになる。
- 2) 今日の日本において差別が生じる要因について、理論にもとづいた自分なりの見解を持ち、議論できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は講義形式で行うが、受講生のディスカッションを適宜行うので、積極的な参加が求められる。

以下のスケジュールで行う予定であるが、授業の進度や受講生の関心に応じて変更する場合がある。

第1回 イン트로ダクション：差別とは何か

第2回 【理論編】パーソナリティ論

第3回 【理論編】社会的カテゴリー化

第4回 【理論編】ステレオタイプ

第5回 【理論編】集団間関係

第6回 【理論編】メディアの影響

第7回 【理論編】接触理論

第8回 【理論編】偏見論への批判

第9回 【理論編】差別の制度化

第10回 【理論編】反差別の法制化とその効果

第11回～第14回 具体的な事例についての考察

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

毎回のコメントシート (30%)、最終レポート (70%) をもとに評価する

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。

参考書は授業の中で適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

普段から新聞を読むなどして、社会の中で起こっていることに関心を持つておくこと。

授業の復習をしておくこと。

9. その他：なし

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：武藤 正義 (非常勤講師)

講義コード：LB98827, **科目ナンバリング：**LHM-OS0301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

数理社会学

2. Course Title (授業題目)：

Mathematical Sociology

3. 授業の目的と概要：

数理社会学を学ぶうえでポイントとなる数理モデルを解説する。

(1) 社会の数理モデルに関するイントロダクションの後(第1講)、ミクロ-マクロリンクのシンプルなモデルとして閾値モデルから入り(第2講)、その発展型として流行のモデルや人口の離散ロジスティックモデルを紹介する(第3講)。これらのモデルにはカオスの考え方が反映されている(周期3はカオスを意味する)。カオスモデルには大国と小国のモデルなどの相互行為モデルもある(第4講)。

(2) 相互行為モデルの典型例であるゲーム理論の基礎をふまえたの

4. 学習の到達目標：

- (1) 閾値モデルおよびカオスモデル(流行のモデル／大国と小国のモデル)を理解する。
- (2) ゲーム理論および社会的ジレンマのロジックを理解する。
- (3) 社会的価値志向(利他志向と平等志向)および二層ゲーム・モデルを理解する。
- (4) アローの不可能性定理と自己言及のパラドクスを理解する。
- (5) 社会ネットワーク分析の基本(バランス理論とスモールワールド)を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 閾値モデル
3. 流行のモデル
4. 大国と小国のモデル
5. ゲーム理論の基礎
6. 社会的ジレンマ
7. 利他志向と平等志向
8. 二層ゲーム・モデル
9. 異質性と最適応答ダイナミクス
10. 投票の数理
11. アローの不可能性定理
12. 自己言及のパラドクス
13. バランス理論(符号付ネットワーク)
14. スモールワールド・ネットワーク
15. 総括：数理社会学とは何か

6. 成績評価方法：

授業課題 [40%]、レポート [60%]

7. 教科書および参考書：

参考書：土場学ほか編『社会をモデルでみる』勁草書房

8. 授業時間外学習：

集中講義なので、よく復習して授業内容はその日のうちに理解する。

9. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB51405, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

質問の科学

2. Course Title (授業題目)：

Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：

行動科学的研究においては調査や実験が行われることが多く、そこでは質問紙（調査票）が用いられることも多い。質問紙（調査票）の作成は長い間「アート」に属するものと見なされて来たけれども、近年になって「質問の科学」と呼ばれる、認知科学的視点にもとづく研究も盛んになってきた。この演習では、「質問の科学」の研究成果を報告した日本語論文を読むことで、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を理解する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」などの関連分野の動向にも目配り

4. 学習の到達目標：

認知科学的な見方を身につけることで、データ収集・測定法の諸問題について理解を深めるとともに、それらの問題に対処するためにはどのようにしたらよいかを考えることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明、担当の決定
2. 質問の科学の概観
3. 回答選択肢のレイアウト
4. 項目の方向性とグルーピング
5. 中間選択肢の影響(1)：検出の方法
6. 中間選択肢の影響(2)：個人特性との関連
7. 中間選択肢の影響(3)：メカニズムの検討
8. 複数回答か個別強制選択か
9. 最小限化（満足化）(1)：分析結果への影響
10. 最小限化（満足化）(2)：そのメカニズムと House Effect
11. 回答指示の非遵守と反応バイアス
12. レスポンス・スタイルの測定モデル
13. センシティブなトピックと使い捨て項目
14. センシティブなトピックとランダムイズド・レスポンス法
15. 総合的討論

6. 成績評価方法：

期末レポート [50%]、平常点（授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程） [50%]

7. 教科書および参考書：

演習の場で検討する文献は、参加者各自が「電子ジャーナル」（附属図書館、CiNii, J-STAGE 等を経由）や「機関レポジトリ」などからダウンロードする。

参考文献：グローヴズ他（大隅昇監訳）『調査法ハンドブック』朝倉書店

8. 授業時間外学習：

- (1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。
- (2) 担当の文献に関する報告の準備をする。
- (3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

9. その他：なし

受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LB61403, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

「質問の科学」実験実習

2. Course Title (授業題目)：

Exercises in the Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：

認知科学的視点に基づいた「質問の科学」に関する理解を、実験実習を通して深める。その理解にもとづいて、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を習得する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」、「テキストマイニング」などの関連分野の動向にも目配りをする。

4. 学習の到達目標：

- (1) 測定と尺度構成の基本的な考え方を、実習を通して理解する。
- (2) 人々が質問紙に回答する際の認知的メカニズムに関する理解を深める。
- (3) 準実験的フィールド調査と実験室実験を通して、質問紙の設計と調査実施の技法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明、グループ編成
2. 分類とコーディング
3. 尺度構成法
4. 評定法・序列法・対比較法
5. 準実験的調査の企画と実施(1)：調査テーマと調査対象の検討
6. 準実験的調査の企画と実施(2)：質問項目と質問文の検討
7. 準実験的調査の企画と実施(3)：実査の準備と実施
8. 準実験的調査の企画と実施(4)：データの整理と分析
9. 自由記述データのテキストマイニング(1)：2次分析の企画
10. 自由記述データのテキストマイニング(2)：基礎集計
11. 自由記述データのテキストマイニング(3)：多変量解析
12. ランダムイズド・レスポンス法(1)：実験の企画、用具等準備
13. ランダムイズド・レスポンス法(2)：協力者募集と実験実施
14. ランダムイズド・レスポンス法(3)：実験実施とデータの整理
15. ランダムイズド・レスポンス法(4)：データの分析

6. 成績評価方法：

レポート(6回)[50%]、平常点(課題への取り組み)[50%]

7. 教科書および参考書：

原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第2版]』 東京大学出版会、2004.

そのほかの文献については、授業で指示する。

8. 授業時間外学習：

- (1) 教科書や参考文献を事前に読み、予習をしておく。
- (2) 教科書等で指定された作業(調査・実験・データ分析等を含む、共同作業の場合もある)を行い、その結果をレポートにまとめる。
- (3) 教科書等にある「問題」について考え、その結果をレポートにまとめる。

9. その他：なし

受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：浜田 宏 (教授)

講義コード：LB53208, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ベイズアプローチによる社会学の理論と実証

2. Course Title (授業題目)：

Sociological Theory and Bayesian Statistics

3. 授業の目的と概要：

- 1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ.
- 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ. 見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する.

4. 学習の到達目標：

Stan を使ったベイズ統計の分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 分布生成モデル
2. ベイズ統計モデルリング 1 ベイズ推定と MCMC
3. ベイズ統計モデルリング 2 確率統計のおさらい
4. ベイズ統計モデルリング 3 R と Stan の導入
5. ベイズ統計モデルリング 4 R と Stan の導入
6. ベイズ統計モデルリング 5
7. Stan による分析 1 モデル式の書き方
8. Stan による分析 2 回帰
9. Stan による分析 3 階層モデル
10. Stan による分析 4 階層モデル
11. Stan による分析 5 分布生成モデルとの接合
12. Stan による分析 6 分布生成モデルとの接合
13. Stan による分析 7
14. Stan による分析 8
15. まとめと総括

6. 成績評価方法：

レポート [50%], 出席 [30%], その他 (授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程) [20%]

7. 教科書および参考書：

教科書：松浦健太郎, 2016, 『Stan と R で統計モデリング』共立出版

参考書：久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店.

Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.

その他の参考書は適宜指示する

8. 授業時間外学習：

毎週, テキストの該当範囲を事前に読んでくること.

9. その他：なし

本演習では R と Stan を使用するので, 実行環境を整えたノート PC を毎回持参すること.

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫, 瀧川 裕貴 (教授)

講義コード：LB53310, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル

2. Course Title (授業題目)：

Self-organization of Social Order and Agent-based Models

3. 授業の目的と概要：

人々が自発的に秩序（協力行動など）を生み出している社会現象がある。本演習では、いくつかの論文を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。

4. 学習の到達目標：

進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1)
2. イントロダクション (2)
3. 社会秩序概念の検討 (1)
4. 社会秩序概念の検討 (2)
5. 自己組織性の理論的検討 (1)
6. 自己組織性の理論的検討 (2)
7. 自己組織性の経験的分析 (1)
8. 自己組織性の経験的分析 (2)
9. 進化ゲーム理論 (1)
10. 進化ゲーム理論 (2)
11. 計算社会学入門 (1)
12. 計算社会学入門 (2)
13. エージェント・ベースト・モデル (1)
14. エージェント・ベースト・モデル (2)
15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]

7. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

8. 授業時間外学習：

演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第5講時（事前に予約すること）

第6セメスターの行動科学演習と併せて参加すること

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫, 瀧川 裕貴 (教授)

講義コード：LB63311, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of Self-organization and Agent-based Models

3. 授業の目的と概要：

エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で自己組織性を解明する。

4. 学習の到達目標：

前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会の自己組織性を自分で解明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. プログラミング入門 (1)
3. プログラミング入門 (2)
4. プログラミング入門 (3)
5. 研究テーマの決定とグループ分け
6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)
7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)
8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)
9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)
10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)
11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)
12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)
13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)
14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)
15. 各グループによる最終的な研究報告

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]

7. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

8. 授業時間外学習：

グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日第 5 講時 (事前に予約すること)

第 5 セメスターの行動科学演習と併せて参加すること

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：永吉 希久子 (准教授)

講義コード：LB55212, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会的排除

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Social Exclusion

3. 授業の目的と概要：

授業目的：近年、貧困や格差の問題を、社会参加からの排除としてとらえる「社会的排除」という概念が注目されている。この授業では社会的排除についての基礎的文献の読解と討論を通して、社会的排除に関する基礎的理論を理解し、現代日本における社会的排除の実態を知るとともに、社会的排除が生じるメカニズムやその抑止の可能性について検討する。

授業内容・方法：授業の前半では、社会的排除についての全般的な理論を学び、後半では、個々の事例や対策として行われている政策について取り上げ、検討する予定である。

4. 学習の到達目標：

- 1) 社会的排除の概念の内容とその特徴を理解し、説明できるようになる。
- 2) 社会的排除が生じるメカニズムについての理論を理解し、説明できるようになる。
- 3) 社会的排除の理論を用いて、日本社会における格差の問題とそれが生じるメカニズムについて説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は3部構成になっている。第一部(1～4回目)では、社会的排除の概念についての理解を深める。第二部(6～10回)では、ホームレス、若年労働者、高齢者、貧困地域の社会的排除を扱った文献の講読を通して、それぞれの対象が置かれている状況を把握するとともに、どのようなメカニズムで排除が生じているのかを知る。特に、学校、家族、職場、社会保障制度が、個々の対象の社会的排除にどのように関連しているのかを考える。第三部(11～14回)では、日本において政府や民間が社会的排除の抑止のために行っているプログラムについて学び、評価する。

授業では、グループごとに担当回を決め、初回授業で指示された文献について紹介を行ってもらう。それをもとに、全体で議論する。

スケジュールは以下の予定である。

1. イントロダクション
2. 【理論編】社会的排除とは何か
3. 【理論編】シティズンシップと社会的排除
4. 【理論編】福祉国家と社会的排除
5. 【理論編】ライフコースと社会的排除
6. 【事例編】不安定就労
7. 【事例編】子ども
8. 【事例編】高齢者
9. 【事例編】ホームレス
10. 【事例編】剥奪地域
11. 【政策編】福祉政策
12. 【政策編】労働市場政策
13. 【政策編】教育政策
14. 【政策編】都市政策
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業での発表(30%)、ディスカッションへの参加(20%)、最終レポート(50%)

7. 教科書および参考書：

初回授業で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業までに各回の文献を読み、自分なりの疑問点や批判点を挙げておくことが求められる。
また、日本における社会的排除の状況を、統計等を用いて調べておくことが、最終レポート作成に必要となる。

9. その他：なし

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：永吉 希久子 (准教授)

講義コード：LB65211, **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

実践計量社会学

2. Course Title (授業題目)：

Quantitative Sociology

3. 授業の目的と概要：

計量的な社会学研究を行うためには、理論についての理解に加え、理論を計量分析可能な形で検証するための操作化の手続きや分析方法についての理解が非常に重要になる。この授業では、計量的な手法で行われた研究論文を講読することにより、そこでどのような操作化が行われているのかを学ぶ。また、そこで行われている分析をレプリケートすることで、実際にデータを分析するためのデータのハンドリングや、分析手法の習得を行う。これによって、自分自身で計量的な手法を用いた論文を書くための実践的な知識を身に付けることが、この授業の目的である。

4. 学習の到達目標：

- ① 社会学理論を計量的に分析する際の、適切な操作化ができるようになる。
- ② 計量社会学で用いられる基本的・発展的な分析手法を習得し、Rを用いて自分で分析ができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は分析方法の説明の回、文献内容の理解の回、レプリケートの回に分けられる。レプリケートは無料の統計ソフトRを用いて行う。Rの使い方については第二回の授業で説明するため、事前の知識は必要としない。

具体的なスケジュールは以下を予定しているが、変更の可能性がある。

1. イントロダクション
2. Rの使い方の基礎
3. 家族と規範：岩井・保田 (2008)
4. 重回帰分析を用いたレプリケート (PC 使用)
5. 階層帰属意識：数土 (2012)
6. 多項ロジスティック回帰分析を用いたレプリケート (PC 使用)
7. マルチレベル分析
8. 福祉国家：池田 (2016)
9. マルチレベル分析を用いたレプリケート (PC 使用)
10. 固定効果モデル
11. メンタルヘルス：中澤 (2010)
12. 固定効果モデルを用いたレプリケート (PC 使用)
13. イベントヒストリー分析
14. 職業移動：石田 (2014)
15. イベントヒストリー分析を用いたレプリケート (PC 使用)

6. 成績評価方法：

授業での課題 (40%)、最終レポート (60%)

7. 教科書および参考書：

授業予定参照。参考文献は授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを事前に読み、課題を行うことが求められる。
また、用いた分析方法についての復習を行うことが、最終レポート作成に必要な。

9. その他：なし

重回帰分析や多項ロジスティック回帰の結果が読めることを前提としているので、これらの手法について未習の場合は自分で学ぶなどしてから参加してほしい。